

11 がい クラスだより

しいの実
たんぽぽ
みず

2023.11.29 円町おびね隣保園

しいの実ぐみ

【お友だち、てんぽぽどう？】

最近の子とてんぽぽの遊びや生活の中でそんな言葉が
浮かぶような表情や行動が見られます。涙している
お友だちがいたら「なんで泣いているんだろ...」とじと
首を見つめ、そっと顔を撫でる。さきまで楽しそうに一緒に
遊んでいたのに「僕(私)はそのおもちゃが欲しいのに
なんでくれないの？」や「なんで耳するの？」とおもちゃの
取り合いが#台まる。保育者が「〇〇くん！とロキと
「ここにいろよ！」と教えてくれ、ロキはそれ本人も「ん？」と
振り振り返りロキにきてくれた子どもと顔を会わす。
など様々な関わり合う様子が増え、4月当初は
個々の楽しめ方をしていたのが、それぞれの中で他人の
存在が更に大きくなっていき、途中入園の子と
たちも、気づけば本音に、気づくから近寄る
みるなど、小さな関わりから、一緒に遊ぶことを楽しん
でいます。子どもたちにとって「友だち」とはどんな風に
映っているのか、気づくところ。思っているように
なる分、相手との思いの違、矢張り、これからお友達
と楽しくていける楽しさに気づいていくと思います。
他のクラスの子とてんぽぽとの交流も、お友だちの
姿に成長を感じながら見守りたいと思います。

【ボクを見て！ワタシを見て！】

子どもたちのアピールが日に日に増えています。「こんな
ものがあーいよ！」「今から楽しいことをするから見てよ！」
など色々なアピールがあります。例えば一緒に
遊んでいるお友だちも保育者の顔を見上げれば、目が
合ったら嬉しそうにする小さい月齢の子とてんぽぽ。アピ
回っているお友だちが車から降りたり、気づくことが
ある度に指差しで「あー、あー」と考えながら大きな月齢の
子どもたち。声や言葉で伝えようとする子どもたち。目は
キラキラしています。お友だちもしっかりと受け止めて共感し
「大丈夫、ちゃんと見てるよ」と子どもたちに伝えるようにしています。

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、冬の訪れを感じる
毎日です。日中は日差しがポカポカと気持ち良く感じられ、
お散歩に行くと元気に走っています。この時期ならではの
自然物も見つけて楽しんでいます。

寒さに負けず12月も元気に過ごしていきたいと思います。

たんぽぽぐみ

おのびのびと

11月は新しい保育者が入り、実習生も入ったりと子どもたち
にとってまた新しい環境となりました。初めはドキドキしてい
る様子を見ながら、日を重ねるごとに、自分から関わりに行く
姿や、一緒に遊ぶことを楽しむ姿、甘える姿も見られるよう
なってきました。不安はなくなり、まだドキドキしている様子もあ
りますが、環境に慣れるスピードも子ども一人ひとりの様子なので、
個々のペースで、安心してできる環境の中で、のびのびと遊ぶように
見守りたいと思います。

おじぶんでい

登園時に準備していたにている手拭きタオルを食前に使用し、
手を拭いてから消毒をして食事をしていました。10月後半頃から食
前にハンドソープで手を洗い、消毒をして食事をしています。手を洗うように
お友だちも、手拭きタオルは食後に手や口を拭いて使
っています。水で手を濡らす → ハンドソープをつける →
泡でゴシゴシ手を擦り合わせて洗う → 水で
流す → ペーパーで拭く、の流れが
毎日の手洗いで定着してきて、自分で
手が洗えるのが嬉しい様子の子とてんぽぽです。
一人で洗うのが難しい場面もあり、「一緒に」と甘えたい
様子の時もあり、保育者が付いて手を擦り合
わせるのを手伝って、「おじぶんでい」と自分でやりたい気持ち
をしっかりと伝えていきます。泡を出しすぎたり、逆に少なすぎ
たり、流せたと思っていても、手首のところに泡がまだついて
いたり見守りや援助が、必要場面もあり、そのような経験も
積み重ねながら、出来た時の達成感を感じ、色々なこころの
意欲にまたつながってほしいと思います。



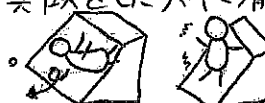
おねがい

室内では基本半袖、半ズボンで過ごしますが、寒くなってきた
ので、戸外へ出る時は長袖、長ズボンを着る日も多くなるので、
着替えの箱に長袖、長ズボンを入れているようにお願いします。

みずぐみ

☆☆ 身体を動かして楽しいね ☆☆

11月はお部屋で身体を動かして遊ぶ時間が沢山
ありました。リズムはもちろんのこと、人気だったのがしい
の実ぐみにある階段+滑り台です。設置すると
すぐに駆け寄り、あそび始めています。階段から登って滑
るだけではなく、立って降りたり、転がってみたり滑り方を考
えて楽しんでいます。友だちの滑り方を見て「面白そう」と
感じると真似をしたり、早く滑りたくて押したり、色々な姿が
ありました。



そこで「順番」を伝えることで、子どもたち同士でも「押さ
ん」として、「待て」、「順番や」と声を掛け合うようになってしま
った。そしてお友だちを渡る際には、手足の動かし方や、身体
の向きが分からなかった子どもたちも、友だちや保育者の動きを
見ることで、自ら身体を反転させ後ろ向きに降りたり、一本ず
つ滑り降り出来るようになりました。

まだまだ手や足が滑ってあそびをぶついたり、友だちと
ぶつかったりすることもあります。しかし、こうした経験を繰
り返しなが、子どもたちは身体を動かす方法を知らず
んだ時に手をついたり、グッと踏ん張ったりする力を身に
付けていくので、大切にしたい経験の1つです。
そしてリズムでも幼児組と一緒にすることで、手や足の
曲げ伸ばしを真似したり、今まで以上にダイナミックに
動いたりするようになりました。今の子どもたちにとって、
「見る」ということはとても良い刺激になっていて、そこから
沢山のことを吸収しています。あそびだけではなく、生活の
中でも片付けや着替え、食事のマナー等、大人がして
いる姿を見せることで、子どもたちにも伝えていきたい
と思います。